

## 2024年度 中国語教育学会 第2回研究会 実施要項

### 1、開催日時

2025年2月16日（日）13:00～15:20

◆オンライン（zoom）で実施。

会員には2月14日ごろにZoomアドレスを送信予定です。

会員のかたは、お申し込みの必要はありません。

非会員のかたは、2月12日（水）23:59（東京時間）までに、以下へお申し込みください。

◆参加費無料（会員・非会員ともに無料）

◆非会員の申込先（google フォームで事前申込）2月12日（水）23:59（東京時間）まで

<https://forms.gle/pz8W87NURdT3DcMD7>



### 2、当日の流れ（発表30分+質疑応答10分=1人40分）

13:00～13:05 諸注意のお知らせ

13:05～13:45 発表者1(質疑応答含む)

13:45～13:50 休憩(5分)

13:50～14:30 発表者2(質疑応答含む)

14:30～14:35 休憩(5分)

14:35～15:15 発表者3(質疑応答含む)

15:15～15:20 学会からのお知らせ

## <お願い>

- ・セキュリティの観点から、入室者の確認を致します。  
入室されましたら Zoom のお名前を「フルネーム」に変更してください。
- ・発表中、お聞きになる方は必ず音声・ビデオをオフにしてください。  
質問はチャット欄への記入、あるいは発表終了後にマイクオンで音声でお願いします

## 発表要旨

### 発表者 1・研究発表

#### 日中ビジネス接触場面における同調行動の多様性 —マルチモーダル分析による考察—

楊一林（津田駒工業株式会社）

本研究では、日中のビジネス接触場面における同調行動の表出様式やタイミングを分析し、異文化ビジネスコミュニケーションの調整メカニズムについて考察する。分析に用いたデータは、同じ企業に所属する中国語母語話者（CN）1名と、日本語を母語とする中国語学習者（JC）2名の計2組による約20分間のミーティング会話を録画したものである。その後、動画解析ツールELANを用いて、言語的情報に加え、ジェスチャーや視線といった非言語的要素を含むマルチモーダルな視点からアノテーションを行い、詳細な分析を行った。結果として、CNとJCの双方が同調行動を示す一方で、その表出様式やタイミングには顕著な違いが見受けられた。また、同調行動や発話の頻度、持続時間が相互に調整されていることも明らかになった。日中ビジネス接触場面における同調行動の質的な違いを理解することは、異文化コミュニケーションを円滑に進めるために重要である。

### 発表者 2・研究発表

#### 面向日语母语者的汉语前后鼻音教学方法与教学效果的考察 —以-an/-ang、-en/-eng、-in/-ing为中心—

孫爽（関西学院大学）、季鈞菲（関西学院大学）

前后鼻音是汉语发音教学中一个较大的难点。本研究总结前人经验，以-an/-ang、-en/-eng、-in/-ing为例，尝试从“分类讨论，各个击破”的角度来探讨不同的教学法对习得效果的影响，以期为今后的汉语前后鼻音教学提供参考。

本研究的两位作者分别采用了偏重实践指导和偏重理论解释的两种教学法。为检测两种教学法与不同鼻韵母的习得效果的关联性，对听辨结果进行了 $\chi^2$ 检定，并得出了以下结论。

1. 对于习得难度相对较低的零声母鼻韵母 an/ang、en/eng，在说明“前后两种鼻韵尾的声学差异”之上，偏重实践与偏重理论解释的教学法所得效果基本一致，听辨正确率均达到 55.00%以上。然而，加入声母之后，偏重实践的教学法则更胜一筹。

2. 对于-in/-ing 的习得，因为这两个韵母的主要元音声学性质非常接近，所以通过对过渡音/ə/的直观化说明达到了更好的听辨教学效果。

综上，本研究认为对于鼻韵母的教学，不能囿于某种统一的教学法，而需要按照该韵母主要元音的特征，在分类对待的基础上采用理论结合实践的综合教学法。

### 発表者 3・実践報告

#### 相互行為を中心とした中国語会話教育に向けて

望月雄介（松山大学）

中国語の初級クラスでは、一般的に文法を中心とした教材で教育がなされるが、そこから初中級、中級とレベルが上がる段階で学生に実践的な中国語を学んでもらうことは、重要な教育課題である。学生が実践的な中国語を学んでいくためには、自然会話に必要な要素そのものを意識することも重要となる。本発表では、自然な中国語会話の教育について、「相互行為」をキーワードに検討する。

実践の場となったのは、第二外国語として中国語を学んでいる2年生の授業である。この授業では、学生に初対面場面を含む2つの場面を設定してもらい、表現上の自然さだけでなく、相互行為上の自然さも求めた。本発表では、学習者における表現上の誤用及び会話の不自然さにも焦点を当てながら、相互行為を中心とした中国語会話教育の実践に向けての可能性を考えたい。また、語用論的、談話分析的、相互行為言語学的観点を取り入れた談話教育についても検討したい。